

事業所長 殿

公示 第494号

令和1年8月21日

東洋水産健康保険組合

理事長 小倉 清孝



平成30年度 収入支出決算書の公示について

標記の件について、令和1年7月19日に開催された
第115回組合会にて可決しましたので公示致します。

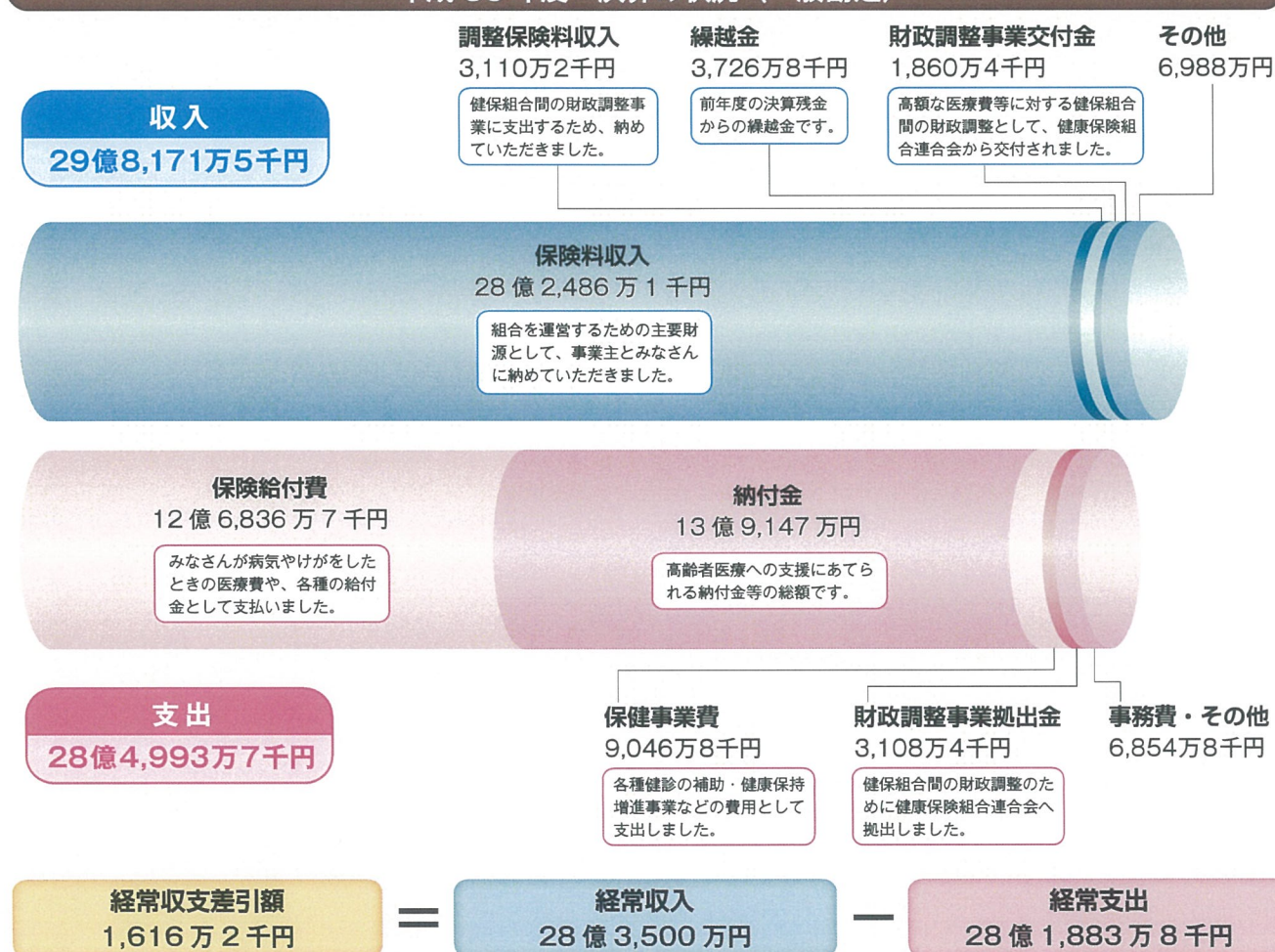
以上

約1,600万円の経常黒字

2年連続の黒字になりましたが、 楽観できない財政状況です

平成30年度決算は経常収支で約1,600万円の黒字になりました。前年度に続き2年連続の黒字で終わることができましたが、納付金の負担増などにより、経常黒字額は前年度決算から大幅に減少しています。当健保組合では引き続き医療費適正化を推進するとともに、効率的な事業の実施に努めてまいります。

平成30年度 決算の状況（一般勘定）



前期高齢者納付金が大幅に増加し、組合財政を圧迫しています！



高齢者の医療は社会全体で支えるという考えのもと、健保組合では前期高齢者(65歳~74歳)に対する納付金、後期高齢者(75歳以上)に対する支援金というかたちで拠出金を負担しています。当健保組合も毎年、多額の拠出金を負担していますが、

平成30年度決算においては前期高齢者納付金が大幅に増加し、前年度に比べて総額で約3億3,400万円、被保険者1人当たり換算すると約6万1,500円も増加しました。人口の高齢化に伴って高齢者の医療費は年々増加しており、拠出金の過重な負担が組合財政を圧迫しています。



平成30年度の決算がまとまりました

決算の概要（一般勘定）

収入

みなさんと事業主から納めていただいた保険料収入は28億2,486万円になりました。平成30年度は保険料率を0.8%引き上げたことから、前年度に比べて5.5%増加しています。

支出

みなさんやご家族の医療費等にあてられる保険給付費は、前年度比3.3%減の12億6,836万円になりました。また、高齢者医療にあてられる納付金は、同比29.7%増の13億9,147万円になっています。そのほか、保健事業費に9,046万円を支出し、みなさんの健康づくりをサポートしました。

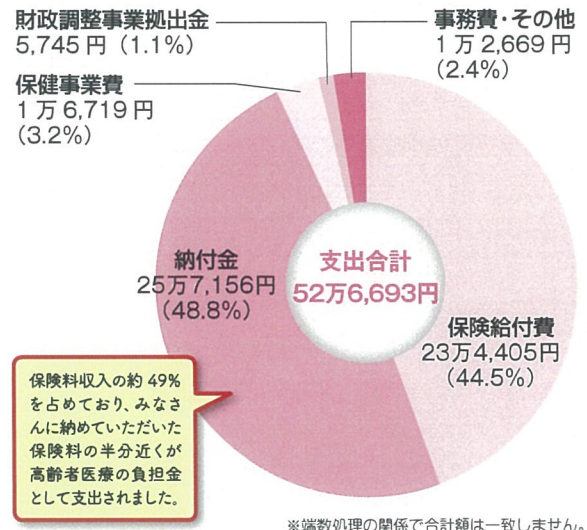
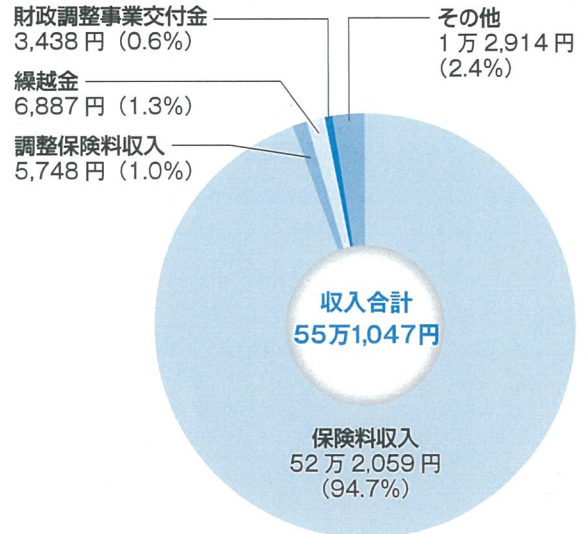
収支

平成30年度は納付金が大幅に増加したものの、保険料収入の増収に加えて保険給付費の減少などがプラス要因となり、経常収支で1,616万円の黒字となりました。

ただし、全国の健保組合を取り巻く情勢をみると、医療費および納付金の負担増大が続いています。とくに納付金については、団塊の世代が後期高齢者に入り始める令和4年以降に急増すると予測されており、現行の高齢者医療制度の抜本的な改革が行われない限り、厳しい財政運営が続くものと思われます。

みなさんにおかれましては健保組合を取り巻く現状をご理解のうえ、当健保組合で実施している保健事業を有効に活用され、引き続き健康の保持増進および重症化防止にご協力いただきますようお願いいたします。

被保険者1人当たりでみた決算額（一般勘定）



介護勘定

平成30年度の介護勘定決算は、収入総額2億8,433万円、支出総額2億6,113万円となり、収支差引2,320万円の決算残金をもって終了しました。

国に納める介護納付金については、報酬に応じて負担する総報酬割が段階的に導入されており、報酬水準が高めの当健保組合では、今後もさらなる負担増が見込まれています。

